

かとうせきかいらんぼん 可動堰回覧板

平成21年11月1日号 (No.52)
国土交通省北陸地方整備局
信濃川河川事務所大河津出張所
TEL 0256-97-2121
E-mail shinano@hrr.mlit.go.jp

回覧

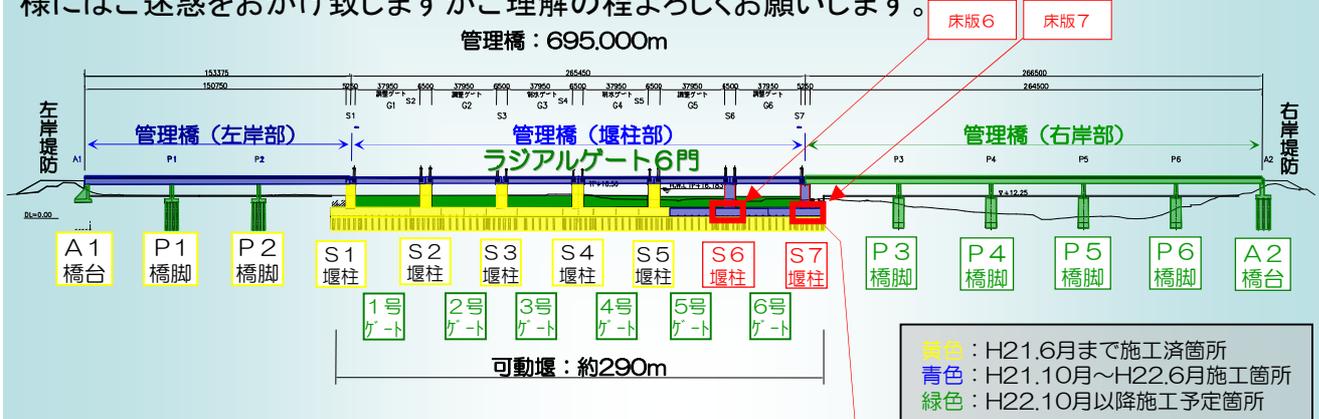
可動堰改築事業の進捗状況についてお知らせします。

可動堰の本体工事が再開され現場は最盛期に

現在、可動堰本体工事は右岸端部のS7堰柱床版部(床版7)の工事などで最盛期を迎えています。中でも床版7の大きさは幅22.2m×長さ30.0m×厚さ3.7m、体積は約2,400m³、使用する鉄筋の重量は約350tと大きなコンクリート構造物であり、施工も大規模なものです。

この床版7のコンクリート打ち込みは、今月14日(土)に行う予定です。当日は、約80台の生コンクリート運搬車が燕市等近隣6箇所の工場から運搬(1日延べ約600台の生コン車が通行、運搬予定時間は午前6時から午後9時頃)するため、沿線道路の車両通行台数が増えます。

また、床版6についても11月21日(土)にコンクリート打ち込みを行う予定であり同様に沿線道路の車両通行台数が増えます。今後もこのような大量なコンクリートの打設をはじめ、ゲートや管理橋などの運搬やこれらに関連する資材運搬等により工事関係の通行車両が増えます。地域の皆様にはご迷惑をおかけ致しますがご理解の程よろしくお願い致します。



若手現場技術者からのメッセージ

～可動堰本体工事への意気込み～

私は、可動堰本体工事の生コン打設を2年前より作業してきました。

年々出来上がる堰本体を毎日通勤途中に目にするたびに、作業は大変だったが携わってきてよかったなという思いになります。

10月から私ども破入組は、昨年に続き堰本体コンクリート工事に携わる予定です。昨年以上に、安全で高品質の構造物完成を目標にして、奮起して作業に取り込んでいきたいと思えます。そして2010年6月には、堰本体の完成を実感し、生涯の宝にしたいと思えます。



株式会社 破入組
高来 良仁
昭和50年6月17日生(34歳)

知っていますか？分水の役割について

意外と知っているようで知らない大河津分水の役割。今回は図やイメージを使って分かりやすく紹介します。

大河津分水が出来るまで

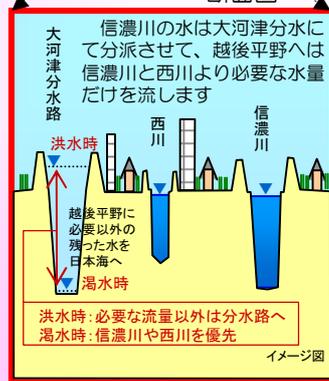
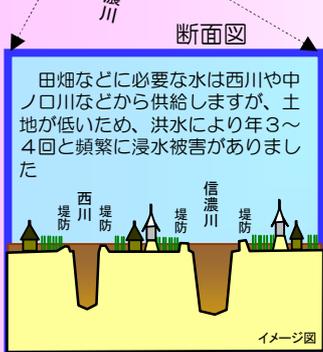


明治42年(1909)大河津分水の工事は本格的に始まる。

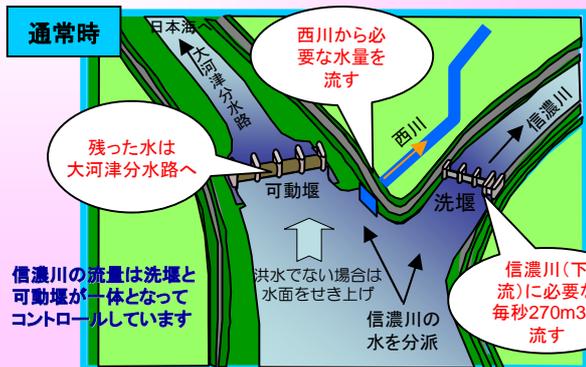
大河津分水が出来てから



断面図



信濃川の水は越後平野で(下流の信濃川・中ノロ川・西川などで取水され)農業用水や水道用水などに使われています。通常の、洪水ではない場合、堰で水面をせき上げて越後平野へ必要な水を信濃川と西川から流し、残った水は分水路を通して日本海へ流します。



大河津可動堰情報館ホームページから、毎月1日には可動堰回覧板の最新号をご覧頂けます。また、バックナンバーも合わせてご覧頂けます。アドレスは「<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/kadouzeiki/>」です。

『可動堰なんでも電話』を開設し、みなさんからのご意見・ご質問などをお待ちしております。

0258-32-3134 (平日 AM9:00～PM4:00)

工事や河川に関することはなんでも大河津出張所へ Tel 0256-97-2121(建設監督官在所)

大河津出張所

:大河津分水全般に関する工事監督・維持管理等

建設監督官(可動堰改築担当):大河津可動堰改築事業に関する工事監督等

信濃川河川事務所

<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/>

大河津可動堰情報館

<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/kadouzeiki/>

信濃川大河津資料館

<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/ohkouzu/index.html>